

新聞を使った授業④

今回は、専門教科の授業(総合サービスコース)での新聞活用の様子です。

総合サービスコースでは、オフィスサービスの業務の一環として、リサイクル用紙などを使用した紙袋作りを行っています。サイズは、名刺入れのような小さな物から、右の写真のようなエコバックまで様々です。

先日行われた第20回光陽祭において、総合サービスコースでは、新聞紙エコバックづくりの体験を行いました。体験者の呼び込みから作り方のレクチャーまで、1年生が中心となり行いました。体験コーナーでは、生徒や保護者を含む20名を超えるお客様に、体験していただきました。参加者からは、「特別重い物を入れなければ、十分に使えます」との感想が聞かれました。



気になる記事コーナー11

「大人の新聞」入門編

読売KODOMO新聞

40歳になった頃、一般常識が身に付いていないことに恥ずかしいなと思ったんです。お笑いでも「物事を知っているからボケられる」と言われることがあった時、芸能人仲間から教えてもらったように、新聞を読むようにしました。それまでクイズ番組で好成绩を取ったことはなかったのに、子ども向けに、新聞を読まなければならぬことをおぼすことができました。

お笑い芸人 児嶋一哉さん 47



読売新聞には、ニュース以外にも、誰かに話したくなるような豆知識が載っています。新聞が難しいと思っている方も、多いかもしれません。まずは、僕のように、自分の関心のあるテーマの記事から読んでみることをおすすめします。

なったことで、政治や経済など様々な分野にアンテナを張れるようになったのかもしれません。今は読売新聞本紙も読むようになりました。以前は、友人がニュースや選挙の話をしていても、ピンと来なかったけれども、今は大抵のニュースが何となく理解できています。自身で関心があるのは、カジノを含む統合型リゾート(IR)が国内で開設できることになったニュースですね。

今回は、バラエティ番組などでMC「そうですよね。大島さん」児嶋「コジマだよ！！(怒)」の突っ込みでおなじみのお笑い芸人「児嶋一哉」さんが、新聞について話している記事です。

児嶋さんの新聞との関わりは、意外と遅く、40歳になってからだそうです。

一般常識が身に付いていないことを恥ずかしいと思ったそうで、本業のお笑いでも「物事を知っているからボケられる」と言います。そんな時、芸能人仲間から「読売KODOMO新聞」を紹介されたそうです。

子ども向けでも新聞を読むようになったことで、様々な分野にアンテナを張るようになり、クイズ番組でも入賞できたそうです。今では、読売新聞本紙も読むようになり、今まで、仲間内の話で、ピンとこなかった話題でも、何となく理解できるようになったそうです。

就職を目指す皆さんも、「職業人としての常識がない」と恥をかかないよう、新聞を読んでみましょう。まずは、児嶋さんがすすめるように、関心のあるテーマから読んでみましょう。